

棚田学会通信

第5号 2001年10月1日
発行/棚田学会
〒184-8577
東京都小金井市本町6-5-3
(ふるさとときやらぼん内)
TEL:042-381-6721
FAX:042-383-8614



写真提供・愛知県鳳来町

目次

表紙写真・愛知県鳳来町の四谷千枚田

四谷千枚田に想う……………愛知県鳳来町長・下江利幸…1

各地の情報

信州上田「稲倉の棚田」から……………稲倉の保全と活性化をすすめる会代表・金澤平五郎…1

四国・大豊町（高知県）にて……………千葉県在住・永田博義…2

貫田地区棚田オーナー制度の取り組み……………兵庫県美方町産業振課・井上武志…3

棚田にみる人の暮らしと風景～大分県院内町余谷地区「両合棚田」～
大分県宇佐両院地方振興局農業改良普及センター・生野栄城…3

官庁ニュース

「フィリピン・コルディレラの棚田」の世界遺産登録のその後
文化庁文化財記念物課・本中 眞…4

日本の棚田百選紹介

南国の棚田百選「佃棚田」の紹介～鹿児島県～……………鹿児島県瀬戸町耕地課・神村憲二…5

棚田学会事務局からのお知らせ

四谷千枚田に想う

愛知県鳳来町長 下江利幸

平成7年、第1回全国棚田（千枚田）サミットが高知県梶原町で開催され、中越梶原町長から「万里の長城も偉大な文化遺産だが、神在居の千枚田も偉大な文化遺産だ」と言われた司馬遼太郎先生の話をお聞きし、棚田は稲作文化、山村文化を語るに欠かせない「日本農業」の原点であり、貴重な文化遺産であると再確認いたしました。

そこで、私は鳳来町の四谷千枚田を保全し、次世代に確実に継承していかなければならないと強く感じ、さっそく地元の人たちに、千枚田保存会の設立をお願いしました。タイミングよくその状況がNHKの「日本まんなか紀行」で放送され、地元の理解が深まり、平成9年1月に、鞍掛山麓千枚田保存会が発足しました。以来、長野県更埴市で開催された第3回全国棚田サミットに続いて、毎年役員の人たち数名が参加し、棚田を守り継承することの大切さとその意義を理解していただけるようになりました。千枚田保存会では、「自分達の棚田は、自分達で守る」をモットーに、集落での話し合い、保全に向けての町への要望など地道な活動を続けています。昨年には、「ふるさと水と土ふれあい事業」による棚田の構造に合致した農道整備等々の事業が採択され、ハード面において千枚田保全に向けて大きく進展することができました。また、中山間地域等直接支払制度の導入は、

高齢化、担い手不足により耕作放棄地が増えつつある集落にとってありがたい制度であり、ソフト面においても千枚田の保全に向けて大きく進展することができました。

国の農業政策が新しい農業基本法の中で、環境というキーワードを重要視した農政へと転換してきたことは、これまで続けてきた全国棚田サミットの大きな成果と評価しています。21世紀を迎え、農業、森林のもつ環境面、防災面、景観面などの多面的機能や公益性が高く評価され始めています。特に棚田のもつ公益性が叫ばれ、これを守り伝えたいという気運が高まっている。これは農業を中心としてきた「日本人の心」であると思われれます。

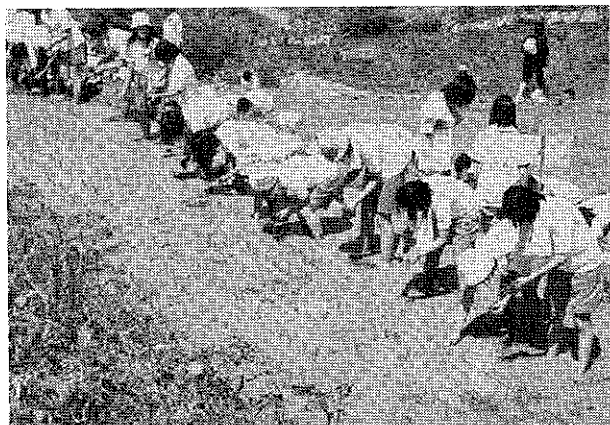
本年、輪島市で開催された第7回全国棚田サミットに、町の保存会員十数名が参加しました。棚田にかかわる人々と情報交換しながら、交流を通して棚田のもつ意義を再確認するとともに、本町においても数年後には、全国棚田サミットを開催できるよう、その受け皿づくりのきっかけにしたいと考えています。

サミット開催により多面的機能と公益性を持つ棚田を理解し、貴重な文化遺産であることを広く多くの皆さんに認識していただく、絶好の機会としてまいりたいと考えています。

[各地の情報]

交流保全運動スタート～信州上田「稲倉の棚田」から

稲倉の保全と活性化をすすめる会代表 金澤平五郎



長野県上田市「稲倉の棚田」

「水田に足を入れて、ぬるっとした感じが気持ちよかったら田植えは成功したも同です。」と生徒たちに話した。

5月18日（金）、埼玉県立大宮北高校生320名が、長野県上田市の稲倉の棚田にやってきた。午後10時。彼等は、白い素足を一斉に田の中へ突っ込んだ。

あかるい、さわやかな歓声が湧き、田植えは始まった。生徒たちにとってこの活動は高校へ入学して初の体験学習であり、私どもにとっては棚田交流保全のスタートでもあった。

田植え作業は、ほぼ2時間で終了した。耕地の

管理者は水田を一巡してこう言った。

「大変上手に植えてあり、補植の必要はありません。合格である。やはり都会の子どもたちにも稲作農耕民の血が流れているのだろう」と。

湧水と殿城山から流れ出す水が、石をくぐって田をつくる。水田は、恐らく、弥生時代から、近くて江戸期には耕作が営まれていた。耕作面積は、およそ20%。

しかしながら、この地も荒廃田はやたらと目立つ。生産保全の面から取り組みだけでは限界がある。今はやり言葉を借りるなら、棚田の構造改

革はいかにあるべきか。

9月中旬には、大宮北高校生が希望者を募って、稲刈りにやってくる。

すでに稲穂はたれ、作柄は上々である。稲刈りからはぜ掛けまで一連の仕事を教えるつもりだ。

市役所の農林課に出向いて、鎌、簡易トイレ、おにぎり等の支援をお願いした。やはり、先立つものはお金。棚田文化を守るには、地元の熱意と経済的援助が欠かせない。棚田は百姓のお城。守るもむずかしいが、攻めるのはなおむずかしい。

四国・大豊町で知った棚田への深い思い入れ

千葉県在住 永田博義

この5月、田植えを終えた棚田を撮影しようと四国・大豊町にでかけたときのことだった。

夕やけ風景の撮影を終え、さらに明朝の光に期待をかけることにし、棚田のそばで車中泊を決め込んだ。のんびりとした気持ちで、静かに暮れゆくあたりの風景を眺めていたが、さっきから向こうの田圃の草取りをしている人が気になりだした。辺りは暗くなったのに、まだその仕事を終えようとしないのである。

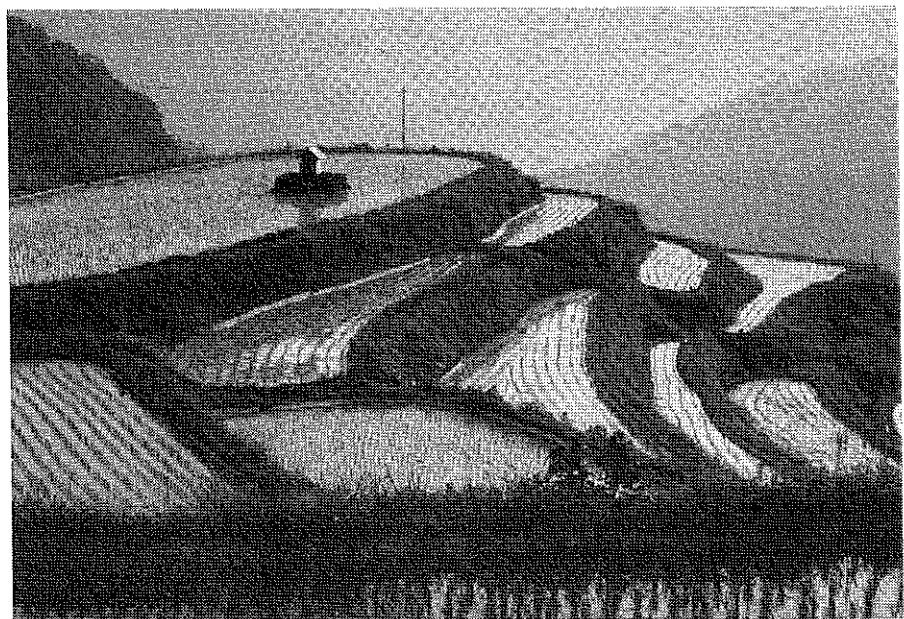
さりげなく近づいて、「夜おそくまで、たいへんですね」と、ねぎらいのつもりで声をかけた。すると夫人は「こんな田圃をみせて、ごめんなさいね」と悲しげに涙声で答えたのである。予期せぬ返答に私は驚いた。

諸々と言葉を交わしているうちに、昨年ご主人が急逝されたことがわかった。「主人が生きていれば、こんな見苦しい田圃の姿ではないのに」と、休耕で田植えもせず草茫茫々になっていることを私に詫びるのである。

私は全国の棚田の姿を追いかけて撮影しているが、草茫茫々の田圃をみると減反政策のあおりと簡単に結論づけていた。そして時には、棚田を見て美し

いと感じるのを見る人の勝手に、もちろん耕している農夫たちが美しくしようと思って耕しているのではないと思っていて。しかし、この時、農夫たちは何が見苦しいか、なにが美しいかを理屈でなく体感して行動していたことを悟り、冷や汗が出る思いをさせられたのである。そして、農夫たちの棚田にたいする思い入れが深く重々しいものであることを知ったのである。

この夏、先のご夫人から暑中見舞いのはがきが舞い込んだ時には、なんともいえぬ嬉しさがこみあげるとともに、あのとき草取りをしていた姿が目には浮かんだ。



高知県大豊町「八幡様の棚田」撮影：筆者

貫田地区棚田オーナー制度の取り組み

兵庫県美方町産業振興課 井上 武志

兵庫県の美方町貫田地区では平成12年度から棚田オーナー制度に取り組んでいます。

貫田地区棚田オーナー制度は、地区の農事組合が主体となって事業を実施し、部分的作業を農家へ委託する方法を採っています。内容は、「水稲100平方メートルを1区画とする」「1区画につき39,800円のオーナー料金を頂く」「原則として田植え・草刈り・稲刈りの3作業に参加していただく」「収穫したお米は全てオーナーへ送る(ただし、災害等で減収した場合でも収穫できた量のみ)」「普段の水管理等は農家が行う」ことを基本にしています。

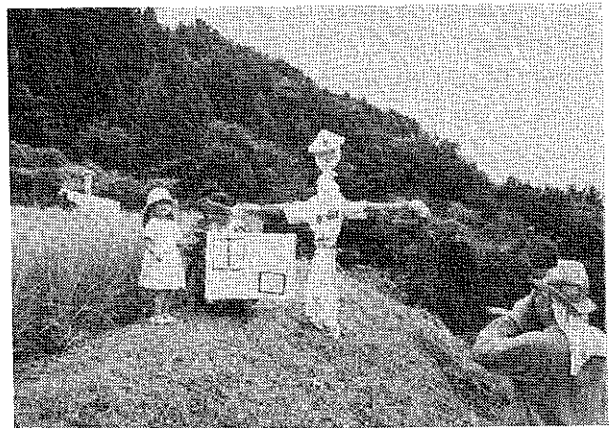
平成12年は、オーナー制度に関する知識・情報が少ない中で取り組んだこともあり、募集開始時期が大幅に遅れ、田植え直前によくオーナーが決まるという状況で20組募集しましたが、6組15人だけの小規模な事業となってしまいました。この点を反省し、平成13年は1月から募集を開始したところ、昨年と同じ20組定員を上回る26組の応募があり、抽選によりオーナーを決定いたしました。その後キャンセル等もあり現在18組約60人のオーナーの皆さんと稲の生育を見守っているところです。

一方、受け入れ農家は昨年今年ともに6農家ですが、高齢化等によりメンバーが変わりました。さらに昨年は1農家につき1オーナーという交流には最適な条件でしたが、オーナー組数が3倍になった今年は、1農家で3組のオーナーを受け入

れなければならず、昨年のように十分なコミュニケーションがとれていないのではと思っています。

事業を実施する上で、年間通して心配なことがひとつあります。作業イベント当日の天候です。昨年は稲刈りの最中に大雨が降り作業を中断して雨宿りをしましたが、台風などでイベントそのものができない場合も考えられます。間もなく収穫の時期がやってきますが、今年は天候に恵まれるようにと今から願っています。

今年も草刈り作業時かかしを作っていました。かかしづくりもそれなりに楽しんで頂けて、ほっとひと安心です。この辺りでは秋になるとイノシシによる獣害が増えてきます。かかしさん、イノシシからオーナーのお米を守ってください！！



棚田で記念写真を撮るオーナー

棚田にみる人の暮らしと風景 ～大分県院内町余谷地区「両合棚田」～

大分県宇佐両院地方振興局農業改良普及センター 生野 栄城

近年、棚田の果たしている公益的な機能やその風景が注目され、たくさんの棚田が雑誌やテレビで紹介されています。特に段々と連なる棚田の風景が、棚田を訪れる人々の表情を穏やかにしているのを見ると、棚田の風景のいったいどんなところにそんな魅力があるのだろうと不思議に思います。

昨年からは仕事でお世話になっている大分県院内町の余谷(あまりだに)地区の棚田も、そんな棚田の一つです。標高150メートルの基盤整備済みの田んぼから330メートルまでの急峻な田んぼまで、計100ヘクタールに及ぶ田んぼが次々と連なり、130戸あまりの家々が9つの集落に分かれ点在しています。特に「日本の棚田百選」にも選ばれている

「両合（りょうあい）棚田」は、小平（こびら）集落と滝貞（たきさだ）集落の間を流れる両合川の両岸にそびえる急峻な石積みの棚田です。

地域の活性化組織の結成が契機となり、この「両合棚田」に新しい活力が生まれつつあります。その一つは肉用牛の放牧です。耕作の放棄されていた棚田のヤブが刈られ、肉用牛が放牧されています。放牧は肉用牛経営の省力化を実現し、棚田は見違えるほど美しくなりました。もう一つは花と野菜の栽培です。生産条件の悪い狭く急峻な棚田は、あぜ塗り、石垣の草刈り、掛け干し作業など、平地に比べ10倍もの労働力を必要とします。花や野菜を栽培することは、棚田という限られた生産条件のなかで一定の収入を得ようとする棚田の新しい活用方法を示してくれています。

肉用牛の放牧や花と野菜の栽培をとおして感じ

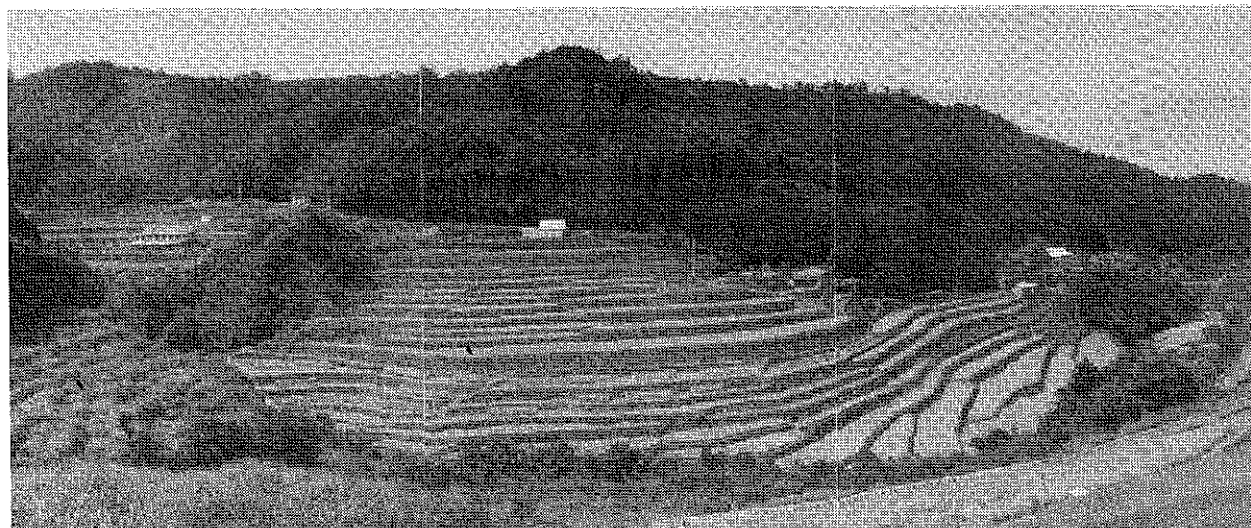
ることは、棚田はそこに暮らす人々にとって暮らしを支える労働の場であるということです。冒頭で棚田の風景の不思議さについて記しましたが、考えてみれば、棚田は傾斜地に人が石を積んで造ったもの。あぜ塗り、草刈り、掛け干しも、棚田の放牧も、花の栽培も皆、人の行った仕事です。

「両合棚田」は魅力あふれる美しい風景をもった、人の仕事や暮らしを支える生きた棚田です。この棚田の美しい風景が訪れる人々の表情を穏やかにするとき、その風景には必ず人の仕事と暮らしがあるのです。

※ 院内町余谷地区における最近の活動を、宇佐両院地方振興局農業改良普及センターのホームページで紹介しています。

URL : <http://www.oec-net.or.jp/~ei-usa>

Mail to : ei-usa@oec-net.or.jp



大分県院内町余谷地区「両合棚田」

[官庁ニュース]

「フィリピン・コルディレラの棚田」の世界遺産登録のその後

文化庁文化財部記念物課 本中 真

棚田として唯一の世界遺産登録 フィリピン・ルソン島北部のコルディレラ山岳地方には、谷部の急傾斜面を切り開いて造成した壮大な棚田景観が展開している。この棚田景観は、1995年に文化遺産の一分野である文化的景観として世界遺産に登録された。その後、農耕地としての世界遺産は、ヨーロッパのワイン生産のブドウ畑や地中海沿岸の柑橘畑など複数登録されたが、アジアの稲作文化を象徴する棚田が登録されたのは、今のところフィリピンの事例にとどまっている。

少数民族の文化的価値の顕彰 コルディレラ地方のイフガオ族を中心とする少数先住民族は、16

～17世紀にスペインの修道士によるキリスト教の布教活動やその後のアメリカの植民者の制服にも頑強に抵抗したため、生活様式の全般にわたってユニークな文化的伝統を今日に伝えている。彼らの生産・生活の中心的な場所が棚田であり、彼らが自らの文化的アイデンティティを確認する重要な資産として、フィリピン政府は世界遺産登録を積極的に進めたのであった。文化の多様性を標榜してやまないユネスコに、まさしく合致する世界遺産登録であったといえるだろう。

生きた文化的景観としての棚田がかかえる不安しかし、その前途には大きな不安がつきまどって

いる。ひとつは若年層の都市への流出に伴い、棚田における労働力が著しく不足しつつあることだ。急傾斜面では機械はおろか家畜を使うことさえ不可能であり、過酷な労働を嫌う若年層は大都市へと出ていってしまうわけだ。もっとも、棚田は扶養能力が限定されているため、人口の増加には対応できず、若年層の都市流出はかえって棚田への潜在的負荷を緩和しているとの見方もある。二つ目の不安は、現代的な材料や工法の導入が、棚田のシステムや景観を微妙に脅かしつつあることである。棚田は多岐にわたる要素が複雑に組み合わさって、ひとつのシステムを構成している文化的景観である。石垣や水路に堅いコンクリート製品が割り込むことにより柔軟な排水システムのバランスが崩れ、降雨や微弱な地震にさえも予想外の影響を受けることとなる。農家の屋根が茅葺きからトタン葺きに変化するなど、景観への影響も

出始めている。その背景には、観光客の増加に伴って所得が漸増している実態がある。

ユネスコとフィリピン政府の対応 現在、ユネスコとフィリピン政府は特別プロジェクトを組んで、世界遺産登録地域のデジタルマップの作成と管理計画の策定に着手している。一朝一夕には解決しないだろうが、これらの事業が問題解決の糸口となり、地元の伝統や文化の再生に効果をもたらすことが期待される。

両国の交流に期待されるもの 以上に紹介したフィリピンの棚田の現状は、日本の棚田においても見てとれる。もちろん、経済的・社会的状況には大きな違いがあり、同一には論じられないが、互いの情報交換と文化交流がプラスの効果をもたらし、それぞれに新たな解決策を見いだすきっかけとなる可能性は十分にあると思う。

(丁)

—— 日本の棚田百選紹介 ——

南国の棚田百選「佃棚田」の紹介～鹿児島県～

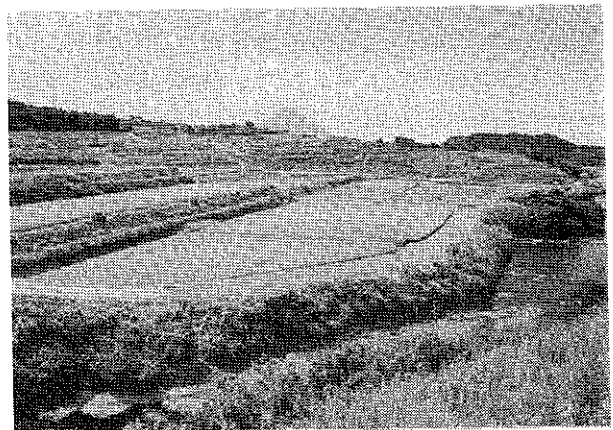
鹿児島県頴娃町耕地課 神村 憲二

頴娃町の概要紹介 町面積110平方km、人口約1万5千人、耕地面積4,150haの内、畑面積3,545ha、水田面積435haの畑作地帯で年間農業粗生産額約230億円である。作物は約1,500haの茶をはじめ、サツマイモ、タバコ、露地野菜、豚牛、鶏卵等の畜産業など幅広い。地形地質は東シナ海の海岸線16kmより標高600mの丘陵山岳が起伏し、鹿児島特有のシラス土壌と薩摩富士と称される開聞岳の噴出物であるクロボク(黒色土壌)で覆われている。普通畑約2,170haは国営、県営事業の畑地灌漑事業により灌漑設備がほぼ完備しており南九州の食料生産基地の一角を担っている。

「佃棚田」の概要 本地区は全耕地面積の10・5%の水田435haの一部24haである。本地域は平成元年度より実施施工中の県営ほ場整備事業(頴娃中部地区)90haの事業地区内にあり、「佃棚田」地区は平成6、7、8年度に工事を行っている。工事前は467枚の棚田が工事後127枚の新しい棚田として生まれ変わった地形勾配七分の一の地域である。関係農家戸数120戸、一戸当たり0・2ha所有の飯米用の水田地域である。

棚田の改革(新しい棚田へ) 工事前は農道、耕作道は皆無で人馬による耕作を余儀なくされており、中山間地域が抱える過疎、担い手不足、機械化営農阻害が本地区にもあり、自然景観を重視した

棚田の維持保全には限界があった。先人たちが鋤で開墾し美しい棚田を構築したが、現世代の私たちは機械力と技術を駆使し、後世に引き継ぐべき「新しい棚田」の改革に踏み切った。地形勾配は大きく変えずに、2反区画(25m×80m)の細長い狭小な区画形成での棚田の整備である。また用水路は、急傾斜地では災害の要因が多いのでパイプライン化し、排水路はすべてコンクリートライニング化した。法面は土羽及び種子吹き付けとして自然草の繁殖が可能な構造とした。クローバー、リンドウ、野菊などが彩る棚田を夢見ている。



鹿児島県頴娃町・秋の「佃棚田」

「棚田百選」の価値と地域 平成11年度に申請認定を受ける背景として、地域住民の方々が農業と自然環境を共有財産として見つめるようになったことにある。工事前に3系統あった用水組合を一組合に統合したことに伴い、パイプラインによる水利用一元化から生まれる地域の協調性、共同感が養われてきた。組合組織機構は組合長、副組合長、書記会計、監事の通常役職の他に、取水口責任者、制水弁操作責任者、転作推進責任者、環境整備責任者等を立てて組織の拡充を図っている。環境整備とは、各ほ場の管理保全は各々の耕作者の責務において成し、パイプライン、排水路、農道、耕作道などの土地改良共有財産は組合員全員のボランティア作業により維持保全を行うもので

ある。年2～3回程度の保全作業は「棚田百選」の誇りに助長される力強さを感じる。

「棚田」と文化伝統 文化伝統と言えは古風的な行事とか、特質な風俗風習の継承をイメージするが「棚田」はその部類に位置付けられるだろうか。景観的に美しいだけでは存続し得ない。生産性と地域地形保全を図りながら美しさ、和やかさを創作することが肝要であると考えている。維持保全する過程の中に老若男女のコミュニケーションの和が広がり、老いた者から先代を知り、若き者から現代を聞き、共に明日を見つめることこそが、「心」の文化伝統である。「佃棚田」は私たちに「明日」を提議してくれたと思う。

[事務局からのお知らせ]

会務報告)

平成13年度棚田学会総会は、8月5日(日)に三越劇場にて開催され、平成13年度の活動計画及び予算案を、理事会提案どおり可決いたしました。

平成13年度活動計画

- | | |
|---|----|
| 1. 棚田学会大会(平成13年度大会 : 平成13年8月5日開催) | 1回 |
| 2. 理事会(注:平成13年7月23日、8月5日開催済) | 7回 |
| 3. 研究会・談話会 | 3回 |
| 4. 棚田学会誌『日本の原風景・棚田』(第2号印刷, 第3号編集)
(棚田学会誌第2号 : 平成13年7月25日発行済) | 1回 |
| 5. 棚田学会通信(第5, 6, 7号) | 3回 |

平成13年度予算 (平成13年7月1日～平成14年6月30日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
事 項	予算額	事 項	予算額
会費収入	1,920,000	旅費	350,000
普通会員400名×4,000円	1,600,000	講師旅費(研究会等)	200,000
学生会員10名×2,000円	20,000	連絡旅費(現地見学会等)	150,000
賛助会員30名×10,000円	300,000	謝金	160,000
(前年度繰越金からの充当による減額)	(△51,000)	編集謝金	60,000
図書販売	100,000	アルバイト謝金	100,000
前年度繰越金	1,949,425	印刷費	1,470,000
(会費に充当すべき51,000円を含む)		会誌第2号(B5、106頁)	1,200,000
		学会通信40,000円×3回	120,000
		大会資料等	150,000
		通信・郵送費	440,000
		会誌発送費(第2号)	140,000
		学会通信発送費(3回)	180,000
		通信費(電話、FAX、切手等)	120,000
		会議費	210,000
		理事会(年7回)	210,000
		大会会場設営費	200,000
		消耗品費	39,425
		予備費(会誌第3号印刷費他)	1,100,000
合 計	3,969,425		3,969,425

第4回棚田学会現地見学会・研究会のお知らせ

安塚の棚田

安塚の棚田はとてもめずらしい
水源地から水路で水を引くことなく、田んぼの上に厚く
積雪の雪解け水だけで稲を育てる。
天からの水だけにたよる棚田は、秋から水を張り始める。
秋の安塚の棚田を見に行こう！
耕作しなくなった棚田はどうか、ダイナミックに？
崩れた棚田も見られるよ！

- 発表① **地元の方**
「安塚の棚田」一年間の棚田の作業を通してー
- 発表② **有田博之** 新潟大学農学部教授
『棚田』の水田工学
- 発表③ **竹田和夫** 新潟県教育庁文化行政課
「新潟の棚田の特徴」ー歴史・民俗の立場から

スケジュール		
10/27(土)	11:45	集合：虫川大杉駅(北越急行ほくほく線) 東京発(新幹線) 8:44~11:23着 直江津発(ほくほく線) 11:13~11:45着
	11:50~12:50	町内棚田見学
	13:00	昼食(各自持参)
	14:00~17:15	研究会
	19:00~21:00	夕食&意見交換会
10/28(日)	9:00~14:00	宿舎出発(途中昼食タイムをとる) 棚田地域の現地見学(4地区)
	14:15	意見交換会
	15:45	解散：虫川大杉駅 15:57発~18:28(新幹線)東京着 16:40発~17:05(ほくほく線)直江津着

とき：平成13年10月27日(土)~28日(日)
場所：新潟県東頸城郡安塚町
会費：10,000円(会員特別価格)
(1泊朝食付・交流会費・2日目の昼食代込)
〆切：10月15日(土)(但し定員30名になり次第〆切)

申込み・問合せ：棚田学会事務局

編集後記

鳳来町の下江町長には、石積の棚田の代表格である四谷千枚田について語っていただきました。金澤さんの「棚田は百姓の城だ」には納得、そして永田さんが会った草を刈る農婦の言葉に、日本の棚田が保全されている真の理由があることを確信いたしました。オーナー制の立ち上げを紹介された井上さん、棚田の活用を報告された生野さん、これからも頑張ってください。文化庁の本中さんが紹介されているフィリピンの棚田も、日本の棚田と同じような悩みがあるようです。百選の棚田は、最南端の頼娃町の佃の棚田の登場を願いました。

編集責任者 中島